

平成 28年度 とちぎ夢大地応援団 カレッジ活動

「鹿沼市中栗野地区」

第3回活動報告 H29・2・18(土)

第3回とちぎ夢大地応援団カレッジ活動が2月18日、鹿沼市中栗野の「遊の郷直売所・交流館」や近くのヒガンバナ群生地で、宇都宮市の文星芸術大学生や中入栗野むらづくり推進協議会（安生英雄会長）の会員ら30人が参加して行われました。

今回のカレッジには、文星芸術大学美術学科でデザインやアニメ、マンガ等を学ぶ1,2,3年生10人と職員2人の12人が参加し、わらアートの解体・片付けやヒガンバナ群生地の竹伐採作業、まんじゅうづくり体験を行いました。

午前中の作業はまず、2年前に同大学の学生たちが直売所前の水田に稲わらや竹を使って作製したわらアートの解体、片付けを行ったあと、近くのヒガンバナ群生地に移動し、地内に生えた竹の伐採を鋸を使って行いました。

午後は、交流館で地元の4人の女性たちを講師にまんじゅうづくりを体験しました。あんこを丸め延ばした生地に包み込むやり方を講師に教わりながら、ひとりで何個もつくりました。丸められたまんじゅうは、すぐにふかされ、みんな「おいしい！」を連発しながらほおぼっていました。

カレッジに参加した学生たちは、地元の人たちを前に「竹切りやまんじゅうづくりなど初めての体験ができて楽しかった」「地元の人との交流が楽しかった」などと感想を話していました。



文星芸術大学生を前に開会のあいさつをする荒井県農村振興課長（左端）



文星芸大生が2年前に稲わらと竹で作製したわらアートの解体・片付け作業



アートの骨組みはこんなふうになっていました



地元の人と一緒にヒガンバナ群生地内の竹伐採作業



昼食は地元の女性たち手づくりの山菜おこわと豚汁に漬物



午後はまんじゅうづくりに挑戦、まずはあんこ丸めから



あんこを生地にくるんで



ふかし容器へ



ふかし上がったまんじゅう
なかにはあんこがはみ出しているのも



自分で作ったまんじゅうを味わう学生たち